

テルモ電子体温計C407

再使用禁止（シースのみ）

【警告】

- 子供だけで使わせないこと。[本品の先端部をかみ切って飲み込んだり、けがをする可能性がある。]

【禁忌・禁止】

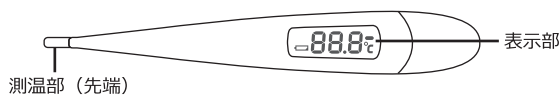
- 引火性のある環境では使用しないこと。[引火又は爆発の誘因となる可能性がある。]
- シースは再使用しないこと。[感染の恐れがある。]

【形状・構造及び原理等】

＜構造図＞

●本体

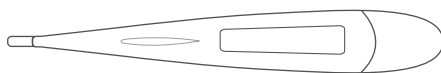
（正面）



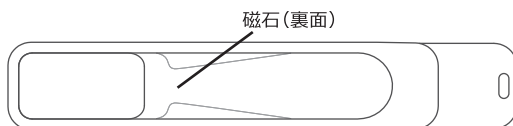
体に接触する部分の原材料

- ・測温部（先端）：ステンレス鋼
- ・筐体：ABS樹脂

（背面）



●収納ケース（単品販売もある）



●表示部

※説明のため、全点灯で表示



●付属品

- テルモ電子体温計専用シース（別売）
- シース（体に接触する部分の原材料：低密度ポリエチレン）

外観寸法：長さ129mm×幅17.6mm×厚さ12.6mm

質量：約13.0g（電池含む）

【機器の分類】

電撃に対する保護の形式による分類：内部電源機器

電撃に対する保護の程度による装着部の分類：BF形装着部 

水の浸入に対する保護の程度による分類：IPX7

【電気的定格】

電源：アルカリボタン電池（LR41）2個（交換不可）

電圧：DC3.0V

消費電力：約0.3mW

＜原理＞

本品は、サーミスタの抵抗変化を利用して温度を検出し、検温開始から約2分までは予測値、それ以降は実測値の最高値をデジタルで表示する。検温中は、平均約30秒（おおよそ25～40秒）で予測が成立したことを知らせるブザーが鳴り、検温をそのまま続けると、検温開始から約5分後に実測検温終了のブザーが鳴る。

【付帯機能】

初期動作確認機能：電源が入った時に所定の表示をし、検温（告知機能）可能を告知する。

予測成立ブザー機能：予測成立時にブザーが鳴動する。（告知機能）

定刻ブザー機能：検温開始から約5分後にブザーが鳴動する。（告知機能）

エラー表示機能：検温不良時、ブザーが鳴動し、表示部に（告知機能）「E」を表示する。

使用温度範囲外表示機能：使用周囲温度が、使用条件の範囲外の場（告知機能）合は、表示部に「Hi」又は「Lo」のマークを表示する。

体温値点滅表示機能：体温計の測温部が大きくずれた場合等で（告知機能）正常な予測検温が行われなかった際は、その旨を体温値の点滅で告知する。

動作不能告知表示機能：体温計が動作異常を検知した場合は、（告知機能）「EE」のマークを表示する。

電源入切機能：収納ケースへの出し入れで電源が入/切（電源制御機能）する。

【仕様に係る事項】

最大許容誤差（温度指示特性）：±0.1℃以内
（標準温度計に対して）

測温範囲：32.0～42.0℃

使用条件：周囲温度 10～40℃

相対湿度 30～85%RH（ただし、結露なきこと）

周囲気圧 700～1060hPa

【使用目的又は効果】

＜使用目的＞

測温部を部位に接触させて、口腔（舌下）、直腸の体温を測定し、最高温度を保持しデジタル表示する。

【使用方法等】

【測定方法（口中検温の場合）】

- 体温計を収納ケースから取り出し（電源が入る）、適宜シースを装着する。
- 舌下中央のすじの横に体温計の先端（測温部）をあてる。
- 舌を下げ、口を軽く閉じる。
- ブザーを聞いてから体温計を取り出す。
 - 予測検温
最初のブザーで取り出す（平均約30秒（おおよそ25～40秒）で測れ、「予測」マークが点灯している）。
 - 実測検温
2度目のブザーが鳴るまで待って取り出す（検温開始から約5分で測れ、「予測」マークが消えている）。より厳密な体温を

測定するには、実測検温を行う。

5. シース装着時はシースを外す。体温計を収納ケースに収める。（電源が切れる）

〔測定方法（直腸検温の場合）〕

1. 体温計を収納ケースから取り出し（電源が入る）、シースを装着する。
2. 成人の場合は側臥位、乳児の場合は仰臥位をとらせ、潤滑剤をつけた体温計を一定の深さ（成人：約6cm／乳児：約2.5～3cm）までゆっくりと挿入する。
3. ブザーを聞いてから体温計を取り出す。
 - (1) 予測検温
最初のブザーで取り出す（平均約30秒（おおよそ25～40秒）で測れ、「予測」マークが点灯している）。
 - (2) 実測検温
2度目のブザーが鳴るまで待って取り出す（検温開始から約5分で測れ、「予測」マークが消えている）。より厳密な体温を測定するには、実測検温を行う。
4. シースを外し、体温計を収納ケースに収める。（電源が切れる）

＜使用方法等に関連する使用上の注意＞

〔口中・直腸共通〕

1. シースの詳細な使用方法については、取扱説明書を参照すること。
2. 体温は時間帯、気温、睡眠、感情等の要因で常に変動しているので、平熱をあらかじめ検温しておくこと。
3. 飲食後、運動後、入浴後、外出から帰宅後はすぐに検温せず、30分ほど待ってから測ること。〔正確な検温ができないことがある。〕
4. 検温開始前に体温計の先端（測温部）に触れないこと。〔正確な検温ができないことがある。〕
5. 検温中は体温計が動かないように、指で支えること。また、体を動かさないこと。〔体温計の測温部が正しい位置からずれると、正確な検温ができないことがある。〕
6. くり返し検温するときは、少し時間をおくなど体温計の先端（測温部）を冷ましてから検温すること。〔正確な検温ができない。〕
7. 取り出してから表示値が変化したときは、変化後の（固定した）値を読み取ること。〔予測演算が終了するまで若干の時間がかかるため。〕
8. 数値を読み取る際は、体温計の先端（測温部）に触れないこと。〔表示が変化することがある。〕
9. 表示が点滅するときは、最初から検温をやり直すこと。
10. 強くかまない、踏まない、落とさない、強いショックを与えない、曲げない、引っ張らないこと。〔破損や故障の原因となる。〕
11. 強い静電気や電磁波、磁石等に近づけたり、近くで携帯電話を使用しないこと。〔誤作動や故障の原因となる。〕
12. 本品は、過度な振動、塵埃、噴霧、腐食性ガス等の発生する場所で使用しないこと。〔本品が有する機能や性能が得られず、また、故障の原因となる。〕
13. 体温計及び付属品を廃棄する際は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）に従って適切に廃棄すること。

〔口中〕

1. 検温中は会話や口での呼吸等、口を開けないこと。〔外気で口中内が冷え、正確な検温ができないことがある。〕
2. 口中検温時にはシースを付けて使用することも、付けずに使用することもできる。

〔直腸〕

1. 多量の便が直腸内に存在している状態では測定しないこと。〔正確な検温ができないことがある。〕
2. 直腸検温時にはシースを付けて使用すること。シースなしで使用してしまった場合、使用中にシースが破れてしまった場合には〔保守・点検上の注意〕に従ってすみやかに水洗及び消毒を行うこと。〔本品の清浄性が維持できなくなる。〕

【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

1. 測定結果の診断、治療は医師の指導に従って行うこと。
2. 電子添文及び取扱説明書を確認の上、使用すること。
3. 口中・直腸以外で使用しないこと。〔けがの可能性がある。正確な検温ができない。〕
4. 破損したものは使用しないこと。〔検温値の異常や、けがの可能性がある。〕
5. 本品の表示部を強く押えたり、ボールペンやツメ等、硬いもの、先の尖ったものでつついたりしないこと。〔表示部の破損や故障の原因となる可能性がある。〕
6. 使用前のシースの破損防止と使用後のシースからの汚染防止のため、体温計にシースを脱着する際はシース外袋に入れたまま行うこと。

【保管方法及び有効期間等】

＜保管方法＞

暖房器具のそば、車の中、日光のあたるところ、ほこりの多いところ、湿気の多いところを避けて保管すること。

保管条件：周囲温度 -10～50℃

相対湿度 30～95%RH（ただし、結露なきこと）

周囲気圧 700～1060hPa

【保管上の注意】

1. 日光や紫外線等の強い光があたる場所に保管したり、長時間放置しないこと。〔外装の変色、劣化や故障の原因となる。〕
2. 収納ケースに磁気カード等を近づけないこと。〔内蔵されている磁石の影響で磁気記録された内容が損なわれる原因となる。〕
3. 必ず収納ケースに収めて保管すること。〔収納ケースに収めて保管しないと、電源が切れずに電池の寿命が短くなる。なお、本品は電池交換できない構造である。〕
4. 複数の収納ケースを重ねて保管しないこと。〔電源が切れないことがある。〕

＜耐用期間＞

耐用期間：5年、あるいは連続使用で、約10,000回（予測検温）（自己認証による）

【保守・点検に係る事項】

【保守・点検上の注意】

1. しばらく使用しなかったときは、使用前に必ず作動（電源が入ること、「電池電圧低下」マークが点灯又は点滅していないことなど）を確認してから使用すること。
2. 本体と収納ケースを洗う際は、水で洗うこと。収納ケースに収める際は、乾いた布等で水気を拭き取ること。
3. 化学薬品（シンナー等の有機溶剤やポビドンヨード、クレゾール等）では拭かないこと。〔使用可能な消毒液以外を使用した場合、本製品の破損、変色や故障の原因となる。〕
4. 使用可能な消毒液（成分名）の例は以下のとおりである。
消毒用アルコール／クロルヘキシジングルコン酸塩／ベンザルコニウム塩化物／次亜塩素酸ナトリウム／グルタラール／アルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩
5. 消毒用アルコールで消毒する場合は、消毒用アルコール綿で清拭し、浸漬はさせないこと。〔故障の原因となる。〕
6. 消毒用アルコール以外の使用可能な消毒薬で浸漬消毒する場合、必要時間以上、消毒液に付けないこと。必要な時間、濃度については、消毒液の電子添文を参照すること。
7. ガス消毒器等による本品の滅菌、消毒はしないこと。〔故障の原因となる。〕
8. ドライヤー等を使用して乾燥させないこと。〔本品が破損や故障する可能性がある。〕
9. 熱湯消毒（50℃以上）しないこと。〔故障の原因となる。〕
10. 超音波洗浄しないこと。〔故障の原因となる。〕

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：テルモ株式会社

電 話 番 号：0120-12-8195 テルモ・コールセンター

外国製造業者：泰尔茂医療産品（杭州）有限公司

Terumo Medical Products (Hangzhou) Co., Ltd.

国 名：中華人民共和国

